



Press Information

VPR07-022

2007 年 5 月 11 日 (金)

フォルクスワーゲン グループ ジャパン 株式会社

フォルクスワーゲン「TSI」エンジンが「Int'l Engine of the Year Awards 2007」で受賞 **また、「ゴルフ GTI」等に搭載されている「2.0 T-FSI」が 3 年連続同クラストップ**

ウォルフスブルグ、2007 年 5 月 9 日

フォルクスワーゲンによるガソリン直噴ツインチャージャーエンジン「TSI」(103, 125kW)が昨年に続き、「International Engine of the Year Awards 2007」の1.0～1.4Lクラスにおいて、競争を大きく引き離して、最も優れたエンジンとして選ばれました。また、「ゴルフ GTI」をはじめ、多数のフォルクスワーゲン グループモデルに搭載されているガソリン直噴「2.0 T-FSI」エンジンが、1.8～2.0Lクラスで3年連続のトップを飾りました。

当アワードは29カ国出身の61名のトップジャーナリストで構成されている選考委員会により授けられ、この分野における最も名誉ある賞です。

フォルクスワーゲン「TSI」エンジンは、ガソリン直噴方式、そしてスーパーチャージャーとターボチャージャーを組み合わせた革新的なツインチャージャー方式を採用したことで、排気量を1.4Lに抑えています。このダウンサイジング(=小型化)の結果、燃費とエミッションを削減しながら、走る楽しさを一段と高めることに成功しました。「TSI」エンジンは既に「ゴルフ」、「トゥーラン」、「ジェッタ」、「ゴルフ プラス」にも搭載されています。

日本市場では現在、TSIを搭載した「ゴルフ GT TSI」(125kW/240Nm)、「ゴルフ トゥーラン」(「TSI トレンドライン」103kW/220Nm; 「TSI ハイライン」125kW/240Nm)が販売され、日本のお客様から高い支持を得ています。本来相反する低燃費と高性能を見事に両立させた「TSI」が、フォルクスワーゲンの同じく低燃費・高性能に効果的な「DSG」トランスミッションと組み合わされていることによって、お客様に楽しい走りと優れた燃費性能を提供しています。「ゴルフ GT TSI」の性能は2.4L エンジンに匹敵しながら、ゴルフシリーズ歴代最高のリッター当たり14km(10・15モード)の燃費を誇っています。そして「ゴルフ トゥーラン」の「TSI ハイライン」はリッター当たり12.4km(10・15モード)の燃費を、「TSI トレンドライン」は12.6km(10・15モード)の低燃費を実現しました。年内には、「ゴルフ ヴァリアント」などのゴルフファミリーモデルを中心に、日本におけるフォルクスワーゲン ラインアップのTSI化が更に加速されていきます。

「TSI」と「DSG」はフォルクスワーゲンが現在進めている全般的なパワートレイン戦略のコア技術です。この戦略に新たに加えるユニットとして、90kWの「TSI」、そして世界初の7速「DSG」(小型・中型車横置き搭載可能)が間もなく完成し、年内にはドイツ市場から順次導入される予定です。

TSI, FSI, DSG はフォルクスワーゲン グループの登録商標です。